

「就業継続アシストセミナー」第 2 回 開催レポート

平成 29 年 9 月 23 日（土・祝） 13:30～16:00

女性が働きながら、家庭との両立やキャリアアップをしていくには、仲間が必要。

「同じような境遇に置かれた仲間と出会い、繋がり、乗り越えてほしい」という思いから、全 4 回の働く女性
全力応援プログラム『就業継続アシストセミナー』の第 2 回目を開催しました！

今回は、仕事と子育ての両立のコツを知り、自分らしく幸せに働き続けるために今できることについてじっくりと考えました。

◆第 2 回テーマ『ママだからこそ！戦略的に仕事も家庭も楽しむ！』

講師：浜田敬子さん（BUSINESS INSIDER JAPAN 統括編集長／前 AERA 編集長）

－女性に経済に翻弄されている??－

「実は女性こそ、日本経済や世界経済に翻弄されているんですよ。」と述べた浜田さん。

バブル崩壊後の 90 年代は、日本経済にとって「失われた 10 年」と言われますが、同時に女性にとっての“失われた 10 年”だとも思っています。女性の採用が抑えられ、両立が困難だったことから結婚・出産退職は常態化した時代でもありました。2000 年代に入ってから一時的には『第一次女性管理職ブーム』もありましたが、リーマンショック後に女性の中途採用は不況の煽りを食う形でほぼゼロ採用に…。

しかし、日本の労働力不足に起因し、「辞めてもらっては困る。」という趣旨での『女性の活躍促進』と言われる今。

「女性は環境に翻弄されますし、本日のテーマである『ママだからこそ！戦略的に仕事も家庭も楽しむ！』って本当？と思いますよね。でも、方法はあるんです。」と浜田さん。



－副編集長で出産を決意！－

浜田さんが朝日新聞社に入社したのは、バブル真ただ中の 1989（平成元）年。その 3 年前の 1986（昭和 61）年 4 月には『男女雇用機会均等法』が施行されました。女性就業を取り巻くこうした環境下では、女性も「行けばどこかの企業には内定がもらえた」時代だったそう。大手都市銀行も女性総合職を大量採用した頃で、朝日新聞社でも、記者職の同期約 80 名中 14 名が女性だったそうです。

「でも、金融機関などでは大量に採用したはいいけれど、始まったばかりの女性総合職に何をさせたいのか、男性上司もよくわかっていなかったんです。」

当時は結婚が決まったら寿退職の時代で、働き続けていても子供が生まれたり離職する人が多く、総合職の女性も結婚、出産で離職する人が多かったそうです。

「その後に訪れた就職氷河期もあって、40 代後半から 50 代が、職場には圧倒的に少ないのです。つまり、今は『女性活躍』しようにも、管理職になれる世代の母数が足りないのです。」

その世代である浜田さんは、希少な女性管理職世代。副編集長になって 2 年ほど経過した頃に妊娠が判明したとのこと。「朝日新聞でも女性管理職で出産するのは初めてだったんです。労働組合がヒアリン

グに来ました。元のポジションに戻してもらえるように約束してますか？と。」

働きながら出産を経験した、女性管理職のまさに先駆者的存在だったのですね！



－工夫次第で、仕事も家庭も両立できる！－

子育てと両立をしながら働き続ける浜田さんは、その後 AERA の編集長へ。当時のチームは、なんと三分の一がワーキングマザー！

「締切りまでに良い原稿を出すこと！今はスマホがあるから LINE でも、電話でも、連絡が取れる。子供が病気だったら、家で仕事をすればいい。」という考えのもと、働き方や就業時間で評価せず、子育て中の社員に柔軟な働き方を認めると、皆さん時間を見つけて全力で頑張ってくれたそうです。

また、子育てで大変な人には、優先的に打合せを設定したり、逆に急な案件をいつもカバーしてくれる若い社員には、「今いっぱい経験しておく、経験が力になって独身貯金できるからね。」と伝えたり。チームをまとめるために、個々人の状況を把握し、必要に応じて職場で共有して不満がたまらないように最大限の配慮をしていたそうです。

抱えている状況を周囲に理解してもらうことで、子育てしながらでもきちんと働くことができるという自信を持てるお話でした！



－それでも60%の力でいい。自分で自分を褒めよう！－

出産を機に、「以前と同じように働けないから、会社に迷惑をかけるから、辞める。」という選択をする女性たちもいるそう。けれども「辞めるという選択をしないで、60%の力でもいいやと考えて、頑張っている自分を褒めること」がワーキングマザーには重要だと言います。

「優先順位を付けて、自分がやらないことを決めましょう。家事や働く時間を、薄く薄く削っていくのは限界があります。家事を全部やるのは無理です。ベビーシッターや、家事サポートなど、時間を買うのはコストではなく投資ですよ。」

必要なのは、頑張り過ぎないこと。「大丈夫ですよ。皆さん、ちゃんとやっていますから。」という浜田さんの言葉に、肩の荷が少し下りた方もいたようです。



－え？夫には言えないの??－

自分が働いている会社には、“状況の困難さ”や、あるいは“働き続けたい思い”、“こうして欲しいという希望”などを伝えることができるのに、夫には言えないという人もいます。その背景には、夫の会社の長時間労働があり、遠慮するあまり、子育てに参加して欲しいという想いをなかなか伝えられずにいることがあるそうです。結果、ワーキングマザーのワンオペ育児になってしまい、復職後、2、3年で疲れて退職…ということになりかねないとか。

「90年代に、子供を産んで復職する女性は少なかったかもしれませんが、少数の先駆者がいたのです。今はパパたちの先駆者を作ることが必要かもしれません。夫が早く帰ることで、長時間労働である夫の会社が変わるかもしれませんよね？」

周囲へ状況の理解を求めること、良い意味で力を抜くこと、パートナーへの相談、そして子供の成長に伴い大変さは変わっていくこと。

今回、『ママだからこそ、戦略的に仕事も家庭も楽しむ方法』を、浜田さんに教えていただきました。

講演の後は、ディスカッションタイムです！そこで出た声をいくつかご紹介します。

●私も夫との交渉が辛く感じました。でも私がモヤモヤしている言葉は、ちゃんと伝えようと思いました。そして、もし何かやってくれたら「ありがとう」と感謝を伝えようと思います。

●私のグループでは、子供との関わる時間が少ない、自分の時間が少ない、時短家事でも悩みがあるなど、様々な意見がありましたが、私は「開き直ろう。」と思いました（笑）。難しく考え過ぎず、優先順位を付けようと思います。

皆さん、色々な発見や気づきがあったようです。これから、働き方や子育ての仕方に工夫をして、働く女性が生きやすい環境を積極的につくっていきたいですね♪



■参加者の声

★「状況をオープンにする。」周囲は気付かないけど、知ることで歩み寄りが生まれる職場に変わると思います。

★浜田さんのお話は、アイデアがたくさん＆具体的で大変参考になりました！

★シンプル、分かりやすく、端的なトーク。「言いたいことをちゃんと言葉にして伝える！」仕事でも、家でも、どこでも自分の気持ちを伝えることが大切だなと思いました。

★自分も変わるし、子供も変わる、そして社会も変わる。また専業主婦 vs ワーママでなく、調和するという考え方が心に残りました。

★家事サービス、シッターサービスは投資！という言葉がとっても印象的でした。まさに浜田さんがおっしゃっていたように、どうしても出費が…とコスト意識で考えてしまうところ、心理的ハードルが下がりました。

★皆、大変な思い、いろんな悩みを抱えながら一生懸命生きているんだなと思った。自分も日々を大切にしながら、大変な時期も踏ん張っていきたい。

(一部抜粋)